



D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL. 059-226-2766

FAX. 059-229-0967

N° 58 octobre 2001 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

三重日仏協会創立15周年記念事業 (I)

11/15 ボジョレ・ヌヴォー パーティー

来春は三重日仏協会が創立されて15周年となりますので、その記念事業を計画していますが、まず11月15日(第三木曜日)、2001年のフランス等での新しい葡萄酒の解禁日に合わせて、協会の主催としてははじめて『ボジョレ・ヌヴォー・パーティー』を開くこととなりました。はたして今年の新酒の出来はどうでしょうか?空輸されてきた出来たてのボジョレを味わいながら秋の夜長をみんなで楽しみませんか。クイズや福引きも用意されるそうです。

日時 11月15日(木) 午後7時より

場所 プラザ洞津3F 近鉄・津新町駅西 059-227-3291

参加費 5,000円

会場の関係で人数に限りがありますので、ご希望の方はお早めに(遅くとも10月中)下記へお申し込みください。

滝沢 059-225-2517 長田 059-226-3312

10/18 10月例会は伊勢支部で

昨年秋に続き、伊勢支部の担当による2回目の例会となります。日ごろ津市中心の活動に参加しにくい南勢志摩地方の会員の方々にはぜひご参加いただきたく、また会員外のゲストも大歓迎です。伊勢市方面で有名なフランス料理レストラン『カンパーニュ』さんのご協力で、食事を楽しみながら懇談します。

日時 10月18日(木)

場所 レストラン『カンパーニュ』

伊勢市勢田町115-3 伊勢自動車道・伊勢西インターすぐ

会費 3,000円

問い合わせ・お申込みは 滝沢 059-225-2517 伊藤 0596-25-0012

会費納入のお願い

今年度会費未納の方は、ご面倒ですが同封の振込用紙にて早めに納入いただきますようよろしくお願いいたします。年会費は3,000円です。

くやしい!あのフランス大め

パリのホテルでの出来事

井土真杉

この初夏のこと。一カ月というこれまでにない長いパリ滞在だったので、小さいキッチン付きのホテルを選んだ。パリで毎回外食では財布も健康ももたないと踏んだからだ。フランス国内に大きなネットをもつ長期滞在型ホテルチェーンの一店で、モンパルナス駅の近所と地の利よく、部屋は狭いがセキュリティもしっかりしており、何かと便利にできている。スタッフも肌の黒い人を含む何人かの若者たちで決して感じは悪くなかった。ただ普通のホテルのように毎朝部屋を掃除してシーツやタオルを交換してくれるのではなく、「決められた日」だけにそれが限られているのが難点だった。私は掃除などどうでもいいのだが、タオル類はやはり新しいのがほしく、その日が待ち遠しかった。

ある夕方、遠出から汗をかいてホテルに帰還すると、それが「決められた日」であったのに部屋は出たときの現状をとどめ、タオルも替わっていない。大いに不服だった私はさっそく文句を言い階下(レドショツセ)へ降りて行った。すると、この日に限って顔なじみのスタッフの傍らに背広を着こんだ、一見して「本部」から見回りに来ている社員という感じの若い男がっている。私に対応したのもこの男。誰かに似ているなと思ったら、あのロシアのプーチンさんに非情緒的な雰囲気などそっくりだ。

私はごく紳士的に「今日はその日であるにもかかわらず、部屋の掃除が済んでいないではないか。なぜなのか?」と尋ねた。私はこれまでの日本のホテルや旅館での経験則からして、相手はきっとまず「それは申しわけありません」と謝り、「さっそく係りに申しつけます」とか「できるだけ早く…」とかいう返事が返ってくるものと信じて疑わなかった。ところがプーチン氏の意外な逆襲に私は虚をつかれ絶句してしまったのだ。彼は手早くパソコンで私の部屋の清掃日を確認したうえで「私にはなぜだかわかりません」と言い涼しい顔をしている。私の頭は当世風という真っ白になった。確かに「なぜ」pourquoi?とは聞いた。でも当のホテルの責任者がその一語に食らいつくように(『ちゅらさん』オバアの「なんでかねー」でもあるまいに) <Je ne sais pourquoi…>と答えてくるとは、思いもよらなかった。「清掃を命じられている係りの者が、なぜそれを怠ったのか私にはわからない」というのが彼の言いぶんらしい。

だいたい私はじっくり考えをまとめながら手紙や文章で論争するのは苦にしないが、口喧嘩は大の苦手で、とくに相手に意表をつかれる一撃を食ったときはシドロモドロになり、あとになってから「ああも言い返せばよかった」などと悔しがるタイプ。日本語でもそうなのだから、異国で粗末な会話力で、しかも自己主張の権化のような国民が相手となれば勝負は最初から見えている。気を取り直してたどたどしく「ホテルとしての責任」を追及してみたりしたがいっこうに冴えない。敵は掃除のことなどそっちのけでもっばら論理の応戦に勝利することに生き甲斐を見つけているようで、最後に勝ち誇ったように「あなたはフランス語がわかりますか?」とやられ、無念やすごすごと退散ということになった。清掃は翌朝してくれたものの、悔しさは増すばかり。行きがかりの口論ではない、いやしくもこっちは客ではないか! 待てよ、フランスでは、「なぜ」がいけなかったのだ。「契約違背に抗議する」とか「すぐ改善せよ」とか言えばよかったのか。それともいっそのこと、いつかダメム先生から「品のよくない言葉」として聞いたことのある <T'es con, quoi!> 「お前アホか」とでも怒鳴ってやればよかったのか、などと悶々と考えていた。

全体としては実りの多いフランスの旅だったが、この日の出来事は何カ月もたった今でも、テレビのニュースにプーチン大統領が顔を出すたびに思い出して悔しがっている。

(三重日仏協会・副会長)



問題のホテルの近くモンパルナス・ジヨリヴェ通りの古物市

定期総会 新役員、事業計画など決める

5人のフランス人によるフォーラム、「パリ祭」も盛大に

2001年度総会は7月15日、津市のホテルグリーンパークで開催され理事会から提案された議案を原案通り決めました。当日ご欠席の会員には議案書を同封いたしますので、ご覧ください。ここでは新役員をご紹介します。(敬称略・50音順)

会 長	矢谷隆一 (再任)		
副 会 長	井土真杉 (再任)		
専務理事	藤田謹司 (再任)		
理 事	伊藤達雄 (再任)	宇京頼三 (新任)	武田治美 (新任)
	J-F. ダメム (再任)	豊田元子 (再任)	橋本信賢 (新任)
	疋田敬志 (再任)		
監 事	山中利之 (再任)		
事務局長	滝沢秀行 (再任)		

なお、青木俊作常務理事、武村洋子理事、尼子マリリン理事はそれぞれのご事情で退任されました。長い間ご苦勞様でした。

総会に引き続き、J-F. ダメム理事を中心に、企業研修のため四日市に滞在していた二人のリヨン大学院生の女性、さらに名古屋在住の日本語講師の男女ゲスト合計5人のフランス人をパネラーに、フランスと日本、またそれぞれの大都市(パリ、東京)と地方の違いといったテーマで自由な討論をお願いし、興味深い内容となりました。そのあと大広間に会場を移し恒例の「パリ祭」パーティーを開催、約60人が参加してシャンパーニュで乾杯したあと、おなじみの「フランス・ビンゴ・クイズ」(今年はパリの地名)などもあって楽しく交流を深めました。

なお、活動を推進するスタッフ、今年度の運営委員は下記の方々をお願いします(敬称略)

伊藤雅人 浦口奈雅子 大原里歩 菅谷光美 長田康二 平井由美子 横山秀明 米沢みゆき

「尼子文庫」目録 (I)

本誌56号で紹介しましたように、本会前理事の尼子マリリン・ロイドさんがこの春イギリスに転居された機会に、その蔵書のうちフランス関係のものを多数本会に寄贈していただきました。

『尼子文庫』として大切に保存しておりますので、会員の皆さんは事務局を通じてぜひお気軽にご利用ください。(担当・豊田さん 0593-51-8031) 今回はその中から美術館系の本をご紹介します。

なお(伊)はイタリー語、(英)は英語、ほかはフランス語で書かれた書籍です。

(美術関係書)

1. 美術名作選 偉大な画家シリーズ HACHETTE
① Altdorfer ② Giorgione ③ Claude Lorrain ④ Botticelli ⑤ Poussin ⑥ Bosch
⑦ Delacroix ⑧ Rousseau
2. Gauguin FLAMARION
3. Giotto RIZZOLI 古美術選 (伊)
4. Henri Rousseau FLAMARION
5. Salvador DALI THE TATE GALLERY (英)
6. Kay Nielsen の知られざる絵画集(英)
7. Deman Robert Pinson
8. ルネサンスとバロック芸術 LAROUSSE ENCYCLOPEDIA (英)
9. フランスの絵画 LE ROBERT

E. U (欧州連合) の12ヶ国 統一通貨ユーロに 2002年から FFr. フランもなくなります

昨年ごろからフランスの商店では、すべての料金表示をフランとユーロの2本立てにしているのが目につきましたが、いよいよ来年の新年からフランスをはじめユーロ・ゾーンの各国では、それぞれの通貨が姿を消しユーロに統一されます(1ユーロ=6.56フラン) 来年あたりフランスやヨーロッパに旅行される予定の方はご注意ください。

- ユーロ (euro) ゾーンとは:(フランス語のアルファベ順に)

ドイツ、オーストリア、ベルギー、スペイン、フィンランド、フランス、ギリシャ、アイランド、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、ポルトガルの以上の12ヶ国で、EUのメンバーでもイギリス、デンマーク、スウェーデンは含まれません。

- ユーロの貨幣は:

紙幣は 5, 10, 20, 50, 100, 200, 500ユーロの7種類

貨幣は 1, 2, 5, 10, 20, 50ユーロ・サンチームと

1, 2ユーロ の計8種類

- この年末から来年にかけての転換期について:

12月14日からフランスでは個人でも「最初のユーロ」として、100フランに対して15.24ユーロを換えることができます。

2002年1月1日を期して12ヶ国でユーロが流通を開始。

2月17日の深夜まではフランとユーロが両方流通します。以後フランは廃止。

6月30日まで手持ちのフランを近くの銀行や郵便局でユーロに替えられます。

以後、硬貨は3年間、紙幣は10年間、フランス銀行が国庫で替えられます。

(以上、2001年5月発行のEU広報誌“GUIDE PRATIQUE DU PASSAGE A L'EURO”より抜粋)

9/22~11/4 アートになった動物たち展 三重県立美術館

1999年、パリの造幣局ミュゼで開催され話題となった同名の展覧会を今回再構成して日本で実現されることとなったものです。ブールデル、ピカソ、ヘンリー・ムア、ジャコメッティなど主に20世紀後半を代表する芸術家の手になる動物彫刻約60点が展示されています。

主催 三重県立美術館 読売新聞社他

後援 パリ造幣局 フランス大使館

観覧料 一般 900円

観覧ご希望の会員は、招待券をいただきましたので早めに事務局まで申し込んでください。

059-226-2766 または 059-225-2517

P.3『尼子文庫』目録(I)(美術関係)つづき

10. オルセイ美術館

11. Japonisme グランパレ国立美術館

12. Les Fees (妖精)

13. シャトルルのステンドグラス SOCIETE FRANCAISE DU LIVRE-PARIS

14. En Provence 水彩画とデッサン PAUL MAUDONNET

15. ブルターニュのキリスト受難像 EUGENE ROYER

16. デイビット・ジョーンズ THE TATE GALLERY(英)